

S-7 ダイバーの健康診断 整形外科

外川誠一郎¹⁾ 山見信夫¹⁾ 中山晴美¹⁾芝山正治²⁾ 眞野喜洋¹⁾

¹⁾ 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科 ²⁾ 駒沢女子大学

整形外科の診療範囲である四肢と脊椎の疾患で、潜水の絶対的禁忌というものは多くなく、RSTCにおいても相対的危険な状態として四肢切断・脊柱側弯・骨壊死、一時的危険な状態として腰痛があるのみである。しかし注意すべき事項はたくさんある。それは減圧症の主要な症状である関節痛と知覚・筋力低下が通常の整形外科診療で扱う疾患の症状とほぼ同じであるからである。以前に関節・脊椎の疾患や外傷によって傷害を受けている場合、ダイビング終了後にこれらの部位に疼痛・しびれなどが生じた際には既往症の増悪によるものなのか減圧症が発生したものなのかの鑑別が大変難しい。ダイビングでは重い機材を背負い足場の悪い陸上を移動する必要もあり、水中でもバランスをとるため・視野の狭さを補うためなどで日常では行わない姿勢が必要になることがあり脊椎・四肢に多くの負担がかかる。たとえば靭帯不全のある場合は関節不安定性のため高頻度で捻挫するであろうし、脊椎の変性のある場合は荷重や非日常的姿勢の強要によって腰痛やしびれなどが高頻度に発症・増悪するであろうことは明らかである。よって、既往症のある場合は専門医を受診して事前に罹患部位の状態を評価してもらい、安全に潜水ができる状態なのかまたどのようなことに注意すれば増悪を防げるかなどのアドバイスをもらうことが重要と思われる。また、潜水前の状態が把握できていれば減圧症との鑑別にも大変有用である。

S-8 ダイバーの健康診断と
メディカルチェックガイドライン
血液疾患と潜水

藤田 浩

(都立墨東病院)

欧米ではダイバーの健康診断とメディカルチェックのガイドラインが存在し、本邦では確立されていなかった。今回、日本高気圧環境医学会で、ダイバーの健康診断の要綱をまとめることになり、血液疾患を担当することになった。

本シンポジウムでは、潜水による血栓症や出血傾向の有害事象を中心に血液疾患全般と潜水とのかかわりを解説していきたい。

- 1 貧血（鎌状赤血球症も含む）
- 2 凝固異常、止血異常
- 3 血栓症
- 4 悪性疾患